

《 学部消息 》

教 授 会 メ モ

3月20日（水）定例教授会

理学部 4 号館 1320 号室

議 題

- (1) 人事異動等報告
- (2) 奨学寄附金の受入れについて
- (3) 物品寄附の受入れについて
- (4) 平成2年度卒業者の決定について
- (5) 学部学生の休学について
- (6) 学部研究生の入学について
- (7) 学部研究生の期間延長について
- (8) 平成3年度受託研究員の受入れについて
- (9) 平成3年度民間等との共同研究受入れについて
- (10) スペクトル化学研究センター規制の制定について
- (11) 人事委員会報告
- (12) 会計委員会報告
- (13) 企画委員会報告
- (14) 理学院計画委員会報告
- (15) スペクトル化学研究センター長の選出について
- (16) その他

4月17日（水）定例教授会

理学部 4 号館 1320 号室

議 題

- (1) 人事異動等報告
- (2) 平成3年度私学研修員の受入れについて
- (3) 教務委員会報告
- (4) 人事委員会報告
- (5) 会計委員会報告
- (6) 企画委員会報告
- (7) 理学院計画委員会報告
- (8) 会計委員会委員の選出について
- (9) その他

5月15日（水）定例教授会

理学部 4 号館 1320 号室

議 題

- (1) 人事異動等報告
- (2) 奨学寄附金の受入れについて
- (3) 物品寄附の受入れについて
- (4) 人事委員会報告
- (5) 企画委員会報告
- (6) 理学院計画委員会報告
- (7) その他

理 学 博 士 学 位 授 与 者

平成3年2月21日付学位授与者（10名）

専 攻	氏 名	論 文 題 目
物 理 学	時 崎 高 志	自己位相変調光による超高速度分光法と半導体ドーパガラスの緩和過程の研究
物 理 学	吉 田 哲 也	LEPにおける標準模型を超える新粒子探索
論文博士	市 川 周 一	循環パイプライン計算機FLATS2の研究
論文博士	佐 藤 三 久	最適化コンパイラによる循環パイプライン・コンピュータにおける並列化の研究
論文博士	Hioe Willy	量子磁束パラメトロン：単一量子超伝導論理デバイス
論文博士	多 田 哲 也	非晶質As ₂ S ₃ における光誘起準安定状態

専攻	氏名	論文題目
論文博士	高 薮 出	温帯低気圧の効率的発達メカニズムに関する研究
論文博士	石 橋 純一郎	中部沖縄トラフ背弧海盆海底熱水系の地球化学的研究
論文博士	松 本 哲 一	同位体分別補正法による第四紀火山岩のK-Ar年代測定 - 測定法の開発と御獄・阿蘇火山への応用 -
論文博士	斉 藤 早久良	二本鎖RNA依存性プロテインキナーゼの細胞内レベルの調節機構に関する研究

〔平成3年3月15日付学位授与者（9名）〕

地球物理学	濱 谷 雅 信	伊豆海嶺上で生じる内部潮汐 — 観測とモデリング
地球物理学	上 嶋 誠	ネットワークMT法による北海道中東部地下電気伝導度構造の推定
人 類 学	足 立 和 隆	ヒトの直進二足歩行における足底圧分布に関する実験的研究
相関理化学	荒 尾 知 人	藻類の多不飽和脂肪酸含有脂質およびその合成
論文博士	寺 田 至	スピノル上の双対対に対応するRobinson-Schensted 型対応
論文博士	矢ヶ崎 えり子	(2×1) および (1×1) Pt (110) 面上におけるエチレンの挙動：吸着、分解および水素との共吸着
論文博士	寺 尾 富 夫	イネ・クロロフィルb欠損変異株の光エネルギー捕集系
論文博士	角 和 善 隆	足尾・美濃・丹波帯の三畳 — ジュラ紀層状チャートの堆積岩石学的・地球化学的研究
論文博士	大 串 融	伊豆大島における過去の地表風化作用により生成した粘土鉱物

〔平成3年4月22日付学位授与者（5名）〕

論文博士	柴 山 悦 哉	オブジェクト指向方式による並行システムのモデル化に関する研究
論文博士	岡 本 裕 巳	フェムト秒時間分解コヒーレントラマン分光法による分子の振動緩和の研究
論文博士	沢 辺 恭 一	MgO表面への化学吸着及び吸着サイトに関するab initio 分子軌動法による研究
論文博士	森 沢 幸 子	サケ科魚類における精子運動能獲得機構の研究
論文博士	森 田 龍 義	タンポポ属の種生物学的研究 — Mongolica 節, Ruderalia 節を中心に —

〔平成3年5月27日付学位授与者（5名）〕

論文博士	中 島 啓	ALE空間上の反自己双対接続のモジュライ空間
論文博士	高 村 禎 二	自由曲面の形状モデリングに関する研究
論文博士	水 谷 亘	走査型トンネル顕微鏡及び分光法による吸着物質の測定
論文博士	金 城 典 子	担子菌類の脂質成分に関する研究
論文博士	西 山 敏 夫	再構成コラーゲン線維ゲル内培養におけるヒト皮膚線維芽細胞の特徴

〔平成3年3月29日付修了者〕

数 学	志 村 立 矢	S4の拡張及び中間論理に対するカット消去定理の成立するゲンシェン式体系
数 学	堀 正	2次のジーゲル・ウェーブ形式に付随したアンドリアノフのL関数
数 学	大 場 清	安定曲線のモジュライ空間の高次元輪体
数 学	神 山 靖 彦	インスタントンとモノポールの上の荒木・工藤作用素
数 学	島 田 伊知朗	シリンドー写像について
数 学	橋 口 徳 一	アノソフ葉層の区分的に線型な表現

専攻	氏名	論文題目
数 学	本 多 尚 文	不確定特異点を持つ極大過剰決定系の構造と解について
情報科学	クリシナン ディバ	CADのためのメタデータモデルの設計と実現
情報科学	賈 小 華	GALAXYオペレーティングシステムにおける多重化されたデータの並列性と一貫性の制御
情報科学	シンハ プラディーブ コマール	GALAXY分散OSにおけるデータ共有機構
物 理 学	赤 坂 展 昌	kHz帯連続重力波のための共振型アンテナ
物 理 学	大 澤 一 人	格子転位のバイエルス応力の計算
物 理 学	藤 平 威 尚	単一モードレーザのパルス発振におけるカオスとその発生機構
物 理 学	若 原 祥 史	強磁場中の熱い電子の伝導の理論
物 理 学	秋 山 英 文	CuClにおける励起子ポラリトン及び励起子分子のピコ秒時間分解分光
物 理 学	浅 川 正 之	超相対論的原子核衝突におけるクォークグルーオンプラズマ形成とレプトン対生成
物 理 学	有 馬 正 樹	π ・核子S波共鳴と η ・核子相互作用の研究
物 理 学	磯 暁	3次元場の理論におけるボソン・フェルミオン変質
物 理 学	市 村 厚 一	ポリジアセチレンの時間分解分光
物 理 学	伊 藤 啓	幼虫、蛹期のショウジョウバエ中枢神経系の発生
物 理 学	伊 藤 伸 泰	モンテカルロ法によるイジング模型の研究
物 理 学	今 井 卓	高温超伝導体における ^{63}Cu 核スピン-格子緩和
物 理 学	梅 木 誠	パラメータ励起された表面波の分岐解析とカオス
物 理 学	尾 形 修 司	高密度宇宙プラズマのモンテカルロシミュレーション：固化、輸送、および核反応
物 理 学	小田島 仁 司	分子の回転緩和過程における共鳴関数の効果
物 理 学	小 野 瑞 城	1次元以下の次元における開弦模型の非摂動的取り扱い
物 理 学	影 島 博 之	LCAO近似を越えた走査トンネル顕微鏡・走査トンネル分光の理論的シミュレーション
物 理 学	小 林 一 昭	第一原理分子動力学法によるSi(001)表面アルカリ吸着系の電子状態と構造最適化
物 理 学	近 藤 秀 治	科学衛星「ぎんが」による微弱X線源のサーベイ
物 理 学	鈴 木 慶 子	カミオカンデIIにおける超新星ニュートリノの探索
物 理 学	高 橋 卓 也	球状蛋白質の解離基pKa値に対する静電的効果
物 理 学	瀧 澤 聡	第一原理計算による貴金属—遷移金属合金の相安定性の研究
物 理 学	多 田 司	2次元重力と行列模型—2行列模型の解析—
物 理 学	田 中 和 廣	相対論的多体問題における中間子伝播関数の構造
物 理 学	土 家 琢 磨	半導体超格子における電子-フォノン相互作用の理論
物 理 学	手 塚 好 弘	アルカリ金属及び水素の吸着したSi(111)表面の角度分解光電子分光
物 理 学	中 澤 康 浩	高温超伝導体 $\text{Ba}_2\text{YCu}_3\text{O}_y$ の比熱-酸素量依存性と不純物効果
物 理 学	中 村 岳 史	ラット・フィブロンекチン遺伝子の転写制御因子の同定と固相化プローブを用いた精製
物 理 学	沼 田 乾	非標準模型的なWW α およびWWZ結合の現象論的影響
物 理 学	野 原 博	超対称戸田理論による拡張された超共形代数の導出

専攻	氏名	論文題目
物理学	針谷 喜久雄	ドーピングされた共役高分子の電子状態と金属転移
物理学	福島 章雄	^3He 薄膜の強磁性
物理学	村山 齊	JLCにおける対称性を破る物理の探究
物理学	山口 敦史	準周期超格子における励起電子のダイナミクス
天文学	青木 哲郎	横向き渦巻銀河NGC 891の近赤外線撮像観測
天文学	秋山 和英	大マゼラン星雲の球状星団の偏平率の時間的変化について
天文学	海老澤 研	ぎんが衛星によるブラックホール候補天体のエネルギースペクトル研究
天文学	神戸 栄治	Be星 ρ Ophにおける短時間線輪郭変化と準周期的質量放出の関係について
天文学	村田 泰宏	オリオン分子雲-1の構造と力学：野辺山ミリ波干渉計による高空間分解能観測
地球物理学	洪 鉄 勲	対馬海峡の潮位変動に及ぼす台風の影響について
地球物理学	佐 柳 敬造	太平洋、大西洋、及びインド洋の海洋地磁気異常の2次元インバージョンから求めた大洋底の磁化強度分布
地球物理学	鳥 越 紀子	頑火輝石球粒隕石のルビジウム-ストロンチウム内部等時線年代測定
地球物理学	今 西 祐一	存否スペクトル解析法の理論と地球自由振動への応用
地球物理学	久 家 慶子	深い地震の非ダブルカップル成分の研究
地球物理学	中 西 正男	西太平洋における中生代磁気異常縞模様に基づく拡大系三重点のテクトニクス
地球物理学	二 神 常爾	鉱物への希ガスイオン照射実験と宇宙化学的意義
地球物理学	室 町 幸雄	地球史を通じたコア・マントル間の科学的相互作用
地球物理学	安 田 敦	上部マントル条件下における酸素雰囲気のカラクリゼーションおよび海洋地殻物質の融解過程
地球物理学	渡 邊 了	流動状態における部分熔融体の構造変化
化学	石 井 由紀子	ニトロ基を含む光酸化還元反応
化学	石 田 尚行	安定ニトロキシドラジカルを有する共役ポリマーの合成と磁気的性質
化学	大 塚 晃弘	直鎖アルキル基を持つ低対称テトラチオTTF化合物に関する研究
化学	北 島 富美雄	炭素質およびユレイライト隕石の炭素質物質
化学	酒 井 潤	X線小角散乱及び赤外吸収によるフィトクロムの分子構造と発色団構造変化に関する研究
化学	野 口 巧	光合成系に含まれるカロテノイドの励起一重項状態とその機能に関する分光学的研究
化学	橋 本 正人	多次元錯体ホスト構造における α , ω -ジミノアルカン及びテトラシアノニッケル(II)酸イオンの連鎖配位異性
化学	間 瀬 一彦	金属表面上に化学吸着した分子の価電子励起に起因する紫外レーザー刺激脱離の研究
化学	吉 田 弘	ポリエン鎖の振動解析
化学	劉 叢 強	中国大陸下における上部マントルの化学進化
生物化学	藤 原 純	ヒトtPA(組織プラスミノゲン活性化因子)遺伝子の発現調節領域の解析
生物化学	藍 澤 広行	微小管結合タンパク質MAP-Uの構造と機能
生物化学	郷 正 博	キロショウジョウバエ中枢神経系における発生段階特異的な抗原
生物化学	柴 垣 芳夫	酵母mRNAキャッピング酵素の構造と機能

専攻	氏名	論文題目
生物化学	中尾 啓子	神経系及び筋肉の形態形成に影響を及ぼすキロショウジョウバエ致死突然変異 1 (2) KN13 の遺伝学的解析
生物化学	春木 満	アミノアシル tRNA の A サイド結合におけるポリペプチド鎖延長因子 Tu の役割
生物化学	東 伸 昭	マクロファージ活性化機構の研究
生物化学	星 美奈子	増殖刺激で活性化する MAP キナーゼの性質と機能
生物化学	前田 達 哉	分裂酵母の増殖・有性生殖過程制御における CAMP 経路の役割
生物化学	八木 健	胚性未分化細胞を用いた相同的遺伝子組換えによる fyn 遺伝子欠失マウス作製に関する研究
動物学	大高 千秋	細胞内共生系の生理学的、分子生物学的研究
動物学	高橋 雄	マウス唾液腺上皮の分枝形態形成における細胞外基質と成長因子の役割
動物学	段 存 明	魚類の骨成長における成長ホルモンの作用機序
動物学	兵藤 晋	下垂体神経葉ホルモンの前駆体遺伝子の発現に関する比較内分泌学的研究
動物学	山田 章	アクチンフィラメントの運動に対する太いフィラメントの極性の影響
植物学	天野 誠	マンネングサ属キリンソウ亜属植物の細胞分類学的研究
植物学	工藤 栄	湖沼における寄生鞭毛菌類によるプランクトン珪藻 (<i>Asterionella formosa</i> Hass.) の個体群密度調節機構の研究
植物学	是枝 晋	アカバネカビ・アデニル酸シクラーゼの遺伝子構造と機能
人類学	河村 正二	高等霊長類における免疫グロブリンアルファ遺伝子の進化
地質学	芦 寿一郎	南海トラフ付加体の構造と水理地質
地質学	倉本 真一	日本海の音響学的層序とその熱構造およびその構造発達について
地質学	田村 芳彦	伊豆半島白浜層群の火山岩類の定置様式と岩石学的成因
地質学	千葉 聡	小笠原諸島における陸貝 <i>Mandarina</i> の進化
地質学	山下 茂	日本海大和海の背弧リフト活動に伴う玄武岩質マグマの生成過程
鉱物学	倉中 聡	LaNi ₅ 合金の金属組織と結晶化学—Co の置換及び Zr, Al 添加の組織と構造に及ぼす効果—
鉱物学	齋藤 潤	南極産ユレイライト隕石の鉱物学とその形成機構推定に関する研究
地理学	廣 邨 真澄	富栄養化した汽水湖での窒素循環における懸濁物食性二枚貝の役割
相関理化学	石井 久夫	シリコンおよびその吸着面の準安定原子電子分光
相関理化学	坪井 滋	ヒマ (<i>Ricinus communis</i> L.) における非特異性脂質転移タンパク質
相関理化学	二宮 京子	雄マウスの性誘引物質およびその効果に関する行動学的研究
相関理化学	藤村 陽	フェン・デア・ワールス分子の分子内反応及び光分解による化学反応の立体動力学的研究
相関理化学	宮本 健司	認知発達の計算理論—視覚系発達を中心にして—

人事異動報告

(講師以上)

所 属	官 職	氏 名	発令年月日	異動内容	備 考
数 学	教 授	砂 田 利 一	3. 3. 16	配 置 換	名古屋大学理学部教授より
地 理	講 師	池 田 安 隆	"	昇 任	助手より
情 報	教 授	後 藤 英 一	3. 3. 31	停 年	
物 理	"	上 村 洸	"	"	
"	"	二 宮 敏 行	"	"	
天 文	"	堀 源一郎	"	"	
地 質	"	飯 島 東	"	"	
数 学	"	増 田 久 弥	"	辞 職	
動 物	助 教 授	佐 藤 真 彦	"	"	
"	"	八 杉 貞 雄	"	"	
植 物	講 師	井 上 康 則	"	"	
"	"	馳 澤 盛一郎	3. 4. 1	採 用	
数 学	教 授	俣 野 博	"	昇 任	助教授より
天 文	"	岡 村 定 矩	"	"	附属天文学教育研究センター 助教授より
数 学	講 師	河 東 泰 之	"	"	助手より
"	"	中 山 昇	"	"	"
地 質	"	多 田 隆 治	"	"	"
植 物 園	"	矢 原 徹 一	"	"	教養学部助教授へ
数 学	助 教 授	黒 川 信 重	"	転 任	東京工業大学助教授より
情 報	教 授	小 柳 義 夫	"	配 置 換	筑波大学教授より
地 球 物 理	"	小 嶋 稔	"	"	大阪大学教授へ
天 文	"	小 平 桂 一	"	併 任	本務：国立天文台教授 期限：4. 3. 31 まで
"	"	山 下 泰 正	"	"	"
"	"	西 村 史 朗	"	"	"
"	"	成 相 恭 二	"	"	"
"	"	海 部 宣 男	"	"	"
"	"	日江井 榮二郎	"	"	"
"	"	宮 本 昌 典	"	"	"
"	"	木 下 宙	"	"	"
"	"	池 内 了	"	"	"
"	"	森 本 雅 樹	"	"	"
"	"	石 黒 正 人	"	"	"
素 粒 子	客 員 教 授	武 田 廣	"	"	本務：神戸大学教授 期限：4. 3. 31 まで

所 属	官 職	氏 名	発令年月日	異動内容	備 考
天 文	助 教 授	家 正 則	3. 4. 1	併 任	本務：国立天文台助教授 期限：4. 3. 31 まで
"	"	安 藤 裕 康	"	"	"
"	"	佐 藤 修 二	"	"	"
"	"	藤 本 眞 克	"	"	"
"	"	中 島 弘	"	"	"
"	"	前 原 英 夫	"	"	"
中 間 子	客員助教授	齋 藤 理一郎	"	"	本務：電気通信大学助教授 期限：4. 3. 31 まで
"	"	石 田 勝 彦	"	委 嘱	理化学研究所研究員
地 球 惑 星	教 授	松 野 太 郎	3. 4. 12	配 置 換	気候システム研究センター教授へ
"	"	"	"	併 任	本務：気候システム研究センター 教授 期限：4. 3. 31 まで
"	"	玉 尾 孜	"	配 置 換	附属地球物理研究施設教授より
"	"	國 分 征	"	"	"
"	"	小 川 利 紘	"	"	"
"	助 教 授	飯 島 健	"	"	附属地球物理研究施設助教授より
"	"	林 幹 治	"	"	"
"	"	岩 上 直 幹	"	"	"
スペクトル	"	内 藤 周 式	"	"	附属分光化学センター助教授より
化 学	"	齋 木 幸一朗	3. 4. 16	昇 任	講師より
	講 師	岩 澤 伸 治	"	"	助手より
動 物	"	館 鄰	"	"	"
植 物 園	"	邑 田 仁	"	"	"
素 粒 子	教 授	清 水 韶 光	3. 5. 1	併 任	本務：高エネルギー物理学研究所 教授 期限：4. 3. 31 まで
"	助 教 授	竹 下 徹	"	"	本務：信州大学助教授 期限：4. 3. 31 まで
地 球 惑 星	"	中 島 映 至	3. 5. 16	転 任	東北大学助教授より
動 物	講 師	館 鄰	"	昇 任	農学部助教授へ

(助 手)

所 属	官 職	氏 名	発令年月日	異動内容	備 考
化 学	助 手	中 井 俊 一	3. 2. 27	休職更新	平 3. 3. 3 まで
物 理	"	木 村 芳 文	3. 3. 1	"	平 3. 8. 31 まで
"	"	横 山 順 一	"	休 職	平 5. 2. 28 まで
化 学	"	中 井 俊 一	3. 3. 4	復 職	
地 殻 化 学	助 手	"	"	配 置 換	化学助手より
素 粒 子	"	山 下 博	3. 3. 31	停 年	
物 理	"	下 村 裕	"	辞 職	
"	"	朝 倉 伸 幸	"	"	
"	"	松 野 俊 一	"	"	

所 属	官 職	氏 名	発令年月日	異動内容	備 考
化 学	"	酒 井 陽 一	3. 3. 31	辞 職	
動 物	"	松 島 俊 也	"	"	
素 粒 子	"	福 永 力	"	"	
物 理	"	長 山 好 夫	3. 4. 1	休職更新	4. 3. 31 まで
数 学	"	大 津 幸 男	"	採 用	
"	"	清 野 和 彦	"	"	
物 理	"	杉 山 直	"	"	
地 球 惑 星	"	沼 口 敦	"	"	
生 物 化 学	"	村 松 知 成	"	"	
動 物	"	佐々木 哲 彦	"	"	
数 学	"	小 林 俊 行	"	昇 任	教養学部助教授へ
"	"	寺 田 至	"	"	"
地 質	"	村 田 明 広	"	"	徳島大学助教授へ
素 粒 子	"	竹 下 徹	"	"	信州大学助教授へ
天 文 研	"	谷 口 義 明	"	"	東北大学助教授へ
物 理	"	多 田 哲 也	"	転 任	工業技術院研究員へ
植 物	"	田 中 一 馬	"	"	広島大学助手より
天 文 研	"	市 川 隆	"	"	一橋大学助手より
化 学	"	SEGURA YANNICK	3. 4. 8	採 用	
地 球 惑 星	"	金 田 栄 祐	3. 4. 12	配 置 換	附属地球物理研究施設助手より
"	"	三 浦 彰	"	"	
"	"	山 本 隆	"	"	
"	"	山 本 達 人	"	"	
"	"	北 和 之	"	"	
地 質	"	清 水 以知子	3. 5. 1	採 用	
植 物 園	"	長谷部 光 泰	"	"	
生 物 化 学	"	森 脇 博 子	"	昇 任	教務職員より
"	"	遠 藤 幸 子	"	"	"
数 学	"	宇 澤 達	3. 5. 16	採 用	

(職 員)

所 属	官 職	氏 名	発令年月日	異動内容	備 考
化 学	事 務 主 任	田 上 多佳子	3. 3. 31	定 年	
地 質	技 官	梅 澤 浩 乎	"	"	
化 学	"	梅 津 恒	"	"	
事 務 部	事 務 官	目 黒 正 明	"	辞 職	
数 学	"	前 田 美也子	"	"	
動 物	技 官	門 屋 真希子	"	"	
事 務 部	学 務 主 任	白 井 照 明	3. 4. 1	昇 任	薬学部事務長補佐へ
"	人 事 掛 長	橋 本 勝 眞	"	"	工学部庶務主任へ

所 属	官 職	氏 名	発令年月日	異動内容	備 考
事 務 部	図 書 掛 長	西 田 恵 子	3. 4. 1	配 置 換	教育学部附属学校へ
物 理	事 務 主 任	蔵 蘭 希 望	"	転 任	宇宙科学研究所管理部契約課 契約第四係長へ
事 務 部	用度掛主任	高 柳 安 雄	"	配 置 換	附属病院管理課給与掛給与主任へ
"	事 務 官	上 原 功	"	"	経理部へ（文部省大臣官房会計課 併任）
"	"	小 貫 雅 彦	"	転 任	学術情報センター会計課へ
数 学	"	須 永 雅 子	"	配 置 換	附属図書館情報管理課へ
情 報	"	渡 邊 将 敏	"	"	文学部へ
事 務 部	学 務 主 任	石 崎 雄 三	"	昇 任	専門職員より
気候センタ ー準備室	事 務 主 任	渡 森 一	"	配 置 換	附属図書館総務課 会計掛長より
事 務 部	専 門 職 員	笹 尾 昭 信	"	"	海洋研究所総務課 専門職員より
"	人 事 掛 長	大 木 幸 夫	"	"	演習林庶務掛長より
"	図 書 掛 長	佐々木 久 子	"	昇 任	新聞研究所附属新聞資料センター より
"	経 理 掛 長	佐 沼 繁 治	"	"	附属病院管理課用度掛契約主任 より
物 理	事 務 主 任	柳 沢 久 男	"	配 置 換	経理掛長より
化 学	"	平 尾 宣 子	"	昇 任	事務室主任より
植 物	"	鈴 木 美和子	"	"	"
気候センタ ー準備室	研 究 協 力 掛 長	梶 正 治	"	"	人事課任用第一掛主任より
事 務 部	経 理 掛 学 際 主 任	斉 藤 岳 巳	"	配 置 換	地震研究所管理掛主任より
"	経 理 掛 科 研 主 任	渡 辺 和 子	"	"	経理掛主任より
"	用 度 掛 契 約 主 任	西 澤 明 生	"	昇 任	用度掛より
"	用 度 掛 物 品 主 任	小 山 久美子	"	"	農学部農芸化学科より
地 質	事 務 室 主 任	岸 美 枝子	"	"	地質より
植 物 園	主 任	高 橋 仁	"	配 置 換	司計掛主任より
事 務 部	技 官	渡 邊 隆 之	"	"	植物園より
天 文	事 務 官	安 田 正 子	"	"	事務部より
事 務 部	"	野 場 琢 也	"	採 用	
"	"	柳 澤 高 広	"	"	
"	"	川 口 司	"	"	
数 学	"	川 島 香 絵	"	"	
"	"	山 崎 直 子	"	"	
物 理	"	渡 辺 陽 子	"	"	
化 学	"	久 保 志津香	"	"	
"	"	我 妻 美弥子	"	"	
植 物 園	技 官	小 牧 義 輝	"	"	

所 属	官 職	氏 名	発令年月日	異動内容	備 考
気候センタ ー準備室	事務主任	渡 森 一	3. 4. 12	配 置 換	気候システム研究センター 事務主任へ
"	研究協力 掛 長	梶 正 治	"	"	気候システム研究センター 研究協力掛長へ
地 球 惑 星	事務室主任	川 村 正 義	"	"	附属地球物理研究施設事務室主任 より
"	技 官	吉 田 栄	"	"	附属地球物理研究施設より
"	"	高 橋 兵 部	"	"	"
スペクトル	事 務 官	逆 井 章 子	"	"	附属分光化学センターより

外国人客員研究員報告

所 属	受入れ教官	国籍	氏 名	現 職	研究員期間	備 考
情報科学科	國 井 教授	中華人民 共和国	LIU, Fang Sheng 劉 方 生	中国科学院自動化 研究所助教授	平 2. 4. 1 ~ 平 6. 9. 30	平 2. 3 月教 授会報告済 の延長：延 長前期間 2. 4. 1 ~ 3. 3. 31で了承さ れたもの
物 理 学 科	一 丸 教授	オースト リア	BÖHM, Helga Maria	ヨハネスケプラー大学理 論物理学研究所助手	平 3. 4. 18 ~ 平 4. 4. 17	
物 理 学 科	鈴 木 教授	ポーランド	LIPOWSKI, Adam	アダムミッキューウィック ツ大学助手	平 3. 6. 1 ~ 平 4. 5. 31	
物 理 学 科	大塚助教授	ドイツ連 邦共和国	BUCHMANN, Alfons Johann	チュービンゲン エバー ハードカールズ大学助手	平 3. 2. 21 ~ 平 3. 10. 8	
化 学 科	田 隅 教授	中華人民 共和国	ZENG, Ze Gen 鄭 澤 根	重慶建築工程学院教授	平 3. 4. 18 ~ 平 3. 10. 1	
化 学 科	増田教授	中華人民 共和国	QI, Lu 其 魯	内蒙古大学 講師	平 2. 4. 1 ~ 平 4. 3. 31	平 2. 3 月教 授会報告済 の延長：延 長前期間 2. 4. 1 ~ 3. 3. 31で了承さ れたもの
化 学 科	増田教授	インド	SAHOO, Sarata Kumar	インド技術研究所研究員	平 3. 4. 10 ~ 平 3. 12. 31	平 3. 3 月教 授会報告済 の延長：延 長前期間 3. 4. 10 ~ 3. 6. 10で了承さ れたもの
生 物 学 科	高橋助教授	中華民国	CHEN, Yuh-ling Lee	台北国立中山大学海洋資 源学教室 助教授	平 3. 6. 18 ~ 平 3. 9. 16	
生 物 学 科	尾 本 教授	中華人民 共和国	HAO, Luping 郝 露 萍	中国科学院遺伝研究所 助教授	平 3. 5. 10 ~ 平 3. 8. 9	

平成2年度 平成3年3月28日卒業者氏名

数 学 科

林 正 人	飯 島 尚 志	古根村 順 一	赤 堀 次 郎	杉 生 因 由
平 松 剛	五十嵐 雅 紀	石 川 佳 弘	大 塚 徹	金 子 真 隆
木 村 浩 二	木 村 健 一 郎	高 木 賢	合 田 徳 夫	雑 賀 秀 一
境 正 憲	澤 尚 幸	杉 本 祐 一 郎	高 橋 浩 樹	武 野 秀 俊
田 阪 元	堤 信 輔	都 築 正 男	中 村 健 一	袴 田 高 志
花 本 健 二	平 野 太 郎	福 間 慶 明	藤 永 正 樹	堀 田 晃 裕
松 本 剛	水 谷 宏 則	宮 崎 琢 也	宮 澤 知 里	森 藤 紳 哉
山 内 尚	山 崎 晋	山 田 裕 一		

38名

情 報 科 学 科

藤 原 仁 志	池 田 哲 也	植 松 理 昌	大 北 剛	栗 林 克 幸
小 林 直 樹	近 藤 玲 子	坂 田 尚 也	須 田 礼 仁	高 橋 伸
竹 田 義 聡	田 島 敬 史	立 石 忠 利	田 中 康 弘	千 葉 滋
月 岡 健 人	土 田 行 信	中 尾 隆 之	博 田 浩 司	林 毅
古 莊 進 一	細 川 昌 也	本 田 広 樹	前 澤 浩 明	水 口 直 毅
宮 田 高 志	村 上 岳 生	吉 田 康 之	渡 邊 亜 紀	

29名

物 理 学 科

藍 谷 典 生	粟 野 正 明	板 橋 淳 志	植 田 隆	大 阿 久 裕 美
大 嶋 由 実	小 川 大 八	下 村 尚 治	根 本 知 己	前 野 義 晴 夫
守 真 太 郎	森 孝 雄	阿 波 加 薫	安 藤 太 郎	池 原 徑 夫
石 井 理 修	石 崎 欣 尚	井 上 慶 純	上 田 佳 宏	大 井 寛 己 美
大 上 雅 史	大 津 秀 暁	大 羽 巧 守	岡 田 直 子	岡 田 吉 美 子
小 野 田 勝 仁	勝 藤 拓 郎	勝 又 彦 守	上 浦 紀 彦	河 内 明 太 郎
菊 地 章 徳	木 野 日 織	古 池 達 彦	小 嶋 健 児	小 谷 太 智 郎
後 藤 秀 雄 二 郎	齋 藤 智 彦	坂 本 成 彦	佐 藤 寿 一 夫	柴 田 智 大 志
嶋 田 隆 志	島 田 賢 也	清 水 鉄 也	秦 泉 寺 雅 治	杉 山 圭 介
関 口 彰 宏	田 口 康 二 郎	辻 村 隆 俊	藤 堂 真 浩	戸 塚 野 大 弘
中 尾 彰 泉	中 山 一 昭 徳	名 倉 野 隆 司	橋 原 道 夫	西 樋 上 和 彦
長 谷 門 正 人	濱 田 昌 治 二	浜 沢 泰 晶 郎	林 本 龍 一 宏	樋 谷 俊 明 央
久 井 唯 夫	平 山 伸 康 人	深 村 上 至 治	藤 矢 口 洋 平	安 田 明 央
三 山 崎 祐 司	山 本 康 人	横 山 至 治		

74名

天 文 学 科

水 留 浩 一
北 垣 俊 一

望 月 賢 治
中 村 香 織

石 原 範 之
西 澤 隆

大 野 洋 介
油 井 正 生

岡 朋 治
渡 邊 大
10名

地 球 物 理 学 科

宮 本 隆 司
煤 田 貴 郁
小 林 一 造
関 美 穂
沼 田 直 美
藤 田 英 輔

下 村 京 子
岡 田 達 明
小 林 信 之
多 田 卓
根 岸 朋 弘
船 守 展 正

新 健 二
川 島 正 行
坂 本 和
田 邊 清 人
日 向 清 孝
森 俊 哉

伊 藤 孝 士
川 村 陽 司
篠 原 育 仁
塚 本 雅 仁
藤 井 千 華 子
山 本 圭 吾

上 野 義 和
清 田 馨
鈴 木 理
中 谷 正 生
藤 井 郁 子
29名

化 学 科

阿 部 英 樹
岩 永 寛 規
荷 月 秀 明
迫 直 樹
田 邊 尚 美
長 沢 陽 祐
藤 川 安 仁
三 浦 隆 昭
吉 井 賢 資

新 井 則 義
岩 間 直
川 本 昌 子
鈴 木 善 繼
角 皆 潤
野 呂 正 樹
藤 森 義 啓
森 朋 彦
米 山 智 子

伊 藤 正 顕
大 塚 浩 文
菅 野 文 雄
相 馬 貴 昌
土 井 孝 次
半 澤 有 希 子
舟 橋 正 浩
森 岡 宗 子
渡 邊 総 一 郎

今久保 達 郎
岡 野 宏 計
斎 藤 雅 一
副 島 見 事
中 野 孝 一
比田井 絵 里
増 田 聡
森 本 佳 和

岩 田 正 洋
岡 本 穂 治
坂 本 将 俊
館 野 功 太
中 村 孝 志
福 岡 宏
万 丸 恭 子
山 口 敬 史
43名

生 物 化 学 科

霜 田 靖
井 上 慎 一
加 納 純 子
土 屋 勇 一
松 田 達 志

仲 川 貴 啓
小 野 尚 孝
小 迫 英 尊
寺 田 貴 帆
松 村 清 之

山 下 俊
小野塚 昭
坂 本 努
中 岡 良 和
三 嶋 将 紀

朝 倉 陽 子
笠 井 英 史
椎 名 伸 之
中 山 純 子
矢 花 直 幸

泉 谷 秀 昌
加 藤 真理子
菅 谷 玲 子
伯 野 史 彦
24名

生物学科（動物学）

柿 澤 昌
近 藤 真理子
松 田 学

新 井 彩 水
酒 井 康 文

岩 井 一 郎
穴 戸 知 行

国 保 晶 子
濱 中 裕 喜

小 林 実
原 田 帆 佐 巳
11名

生物学科（植物学）

森 田 純
川 崎 政 人
林 誠
山 田 具 孝

石 橋 百 枝
河 津 維
藤 野 眞 理
山 本 隆 晴

今 井 純
木 村 啓 太 郎
藤 原 研 二 郎

小 野 清 美
鈴 木 高 史
升 屋 正 人

金 澤 英 之
高 橋 秀 行
山 岸 真 美
17名

生物学科（人類学）

石 津 学 小 田 亮 隅 山 健 太 竹 内 雅 哲 4 名

地学科（地質・鉱物学）

川 田 耕 司 清 水 洋 明 内 田 圭 亮 生 形 貴 男 小 原 泰 彦
 桑 代 毅 彦 重 本 和 之 末 次 寧 鈴 木 正 哉 成 瀬 知 明
 畠 山 毅 一 郎 前 田 卓 哉 藻 谷 亮 介 森 谷 善 郎 矢 作 保 夫
 山 岸 啓 和 田 達 志 17 名

地学科（地理学）

久保田 秀 徳 安 形 康 荻 間 敦 加 納 聖 隈 元 崇
 里 村 卓 也 松 本 康 裕 松 山 洋 8 名

合 計 304 名

海 外 渡 航 者

（6 月以上）

所 属	官 職	氏 名	渡 航 先	期 間	目 的
物 理	助 手	横 山 順 一	ア メ リ カ 合 衆 国	3. 3. 1 ~ 5. 2. 28	インフレーション宇宙の創生と進化に関する研究
地 質	助 教 授	棚 部 一 成	ア メ リ カ 合 衆 国	3. 3. 9 ~ 3. 12. 3	有殻頭足類の系統進化学的研究のため
地 質	助 手	高 橋 裕 子	ア メ リ カ 合 衆 国	3. 3. 1 ~ 4. 2. 28	「蒸発・真空実験に基づく原始太陽系星雲の化学・物理的条件の確定」研究遂行のため
素 粒 子	助 手	森 俊 則	ス イ ス フ ラ ン ス	3. 1. 27 ~ 3. 8. 6	ハドロンを含む過程のデータ解析及び国際協同実験電子・陽電子衝突実験のため

平成 3 年度科学研究費補助金採択（内定）さる

本年度科学研究費補助金の交付申請に対し、4 月 26 日付で、本学事務局経由により同補助金の採択（内定）の通知がありました。（特別推進研究(1)、(2)は 7 月下旬交付内定のため未定）

理学部関係の申請件数および採択件数は次表のとおりで、総額 979,000,000 円（遺伝子実験施設 900,000 円：外数）でした。

平成 3 年度科学研究費補助金理学部申請・採択件数一覧表

平成 3. 6. 1 現在

区分 研究種目	申請件数	採 択 件 数			採 択 率
		新 規	継 続	計	
特 別 推 進 研 究 (1)	2				
特 別 推 進 研 究 (2)	5 (3)				
が ん 特 別 研 究 (1)	1	0		0	0 %
が ん 特 別 研 究 (2)	5	3		3	60.0 %
重 点 領 域 研 究 (1)	23	19		19	82.6 %
重 点 領 域 研 究 (2)	67	29		29	43.3 %
総 合 研 究 A	26 (8)	5	7	12	46.1 %
総 合 研 究 B	9	7		7	77.7 %
一 般 研 究 A	28 (13)	3	13	16	57.1 %
一 般 研 究 B	68 (24)	11	24	35	51.4 %
一 般 研 究 C	82 (16) ①	30	15	45	54.8 %
奨 励 研 究 (A)	86 ①	44 ①		44 ①	51.1 %
試 験 研 究 A (1)	2 (1)	0	1	1	50.0 %
試 験 研 究 A (2)	1 (1)		1	1	100.0 %
試 験 研 究 B (1)	10 (3)	2	2	4	40.0 %
試 験 研 究 B (2)	25 (2)	4	2	6	24.0 %
合 計	440 (71) ②	157 ①	65	222 ①	51.38 %

昨年は、申請件数 485 件、採択件数 279 件、採択率 57.52 %であった。

() 継続申請：内数 ○ 遺伝子実験施設：外数

理学部長と理職の交渉

2月18日、3月18日と4月15日に理学部長と理学部職員組合（理職）の定例の学部長交渉が行われた。その主な内容は以下の通りである。

1. 職員の昇格・昇級等の待遇改善について

2月交渉で理職は、特昇の選考基準について質問した。学部長は、教室主任からの推薦を尊重して理学部としては推薦を行っている。以前教室主任をやっていたときの経験では、「公平の原則」をふまえて、ローテーションで全員に平等に渡るように行っていた、と答えた。理職が、15%の人に特昇を行うということだから、約7年に一度ということになり、勤続35年として単純計算によれば5回か6回の特昇があるはずだが、4回しかないというような原則はあるのか、と尋ねた。事務長は、そのような原則はない、と回答した。3月交渉で理職は、事務主任任用の要望書を提出し、ほぼ同じ条件で採用されて39才で係主任、41才で係長になった人と比較してかなり給与の差がついていることから、早急な努力を要請した。また、3級の高位号俸者の係主任任用についても要望をした。事務長は、以前に要望書を提出しており、これとも併せて引続き折衝を行って努力していく、と回答した。理職は、技術・図書職員の昇格推薦の要望書（2月8日提出）のとおり、もれなく推薦をお願いする、と要請した。事務長は、全員の推薦を行う、と回答した。4月交渉で理職は、3名（事務主任2名、事務室主任1名）の昇任について感謝の意を表した。事務長は、退職者と差し引き事務主任定数が1増となったことについて、属人的なものではなくポストがきたものであると述べた。また、理職は今回の昇任発令者の昇級について、出来るだけ早急に行なわれるよう努力を求めた。

2. 定員外職員の定員化について

2月交渉で理職は、定員外職員の問題について理学部の責任に関して学部長の考えを尋ねた。学部長は、責任は重く、定員化に向けて努力しなければいけないと考えている、と答えた。理職は、空きポストを定員化用のポストとして凍結することで、理学部としての

誠意を示して欲しい、と求めた。学部長は、特定のポストを長く空けておくことは難しいとしながらも、人事委員会に事情説明と要望を行うことを約束した。3月交渉で学部長は、人事委員会で、積極的な支援を行うことを承認した。今年度中にポストが空くかどうかは分からないが、できるだけ努力する、また4月から委員会メンバーが変わるが、引継ぎ事項として申し送りされる、と報告した。4月交渉で理職は進展状況について尋ね、事務長は本部の担当者も理解を示して前向きに対処してくれていると回答した。

3. 行（二）から行（一）への振り替えについて

2月交渉で理職は、以前から要望している行（二）から行（一）への振替について重ねて要望した。事務長は、振替要求の調査がきたので（2月末文部省締め切り）、要望を出しておいた、3月中旬に結果がわかると回答した。4月交渉で理職は、この結果について質問し、事務長は、残念ながら今回はだめだったが、年度途中もあり得ると聞いているので今後に期待している、と答えた。

4. 教務職員問題

2月交渉で理職は教務職員問題について、昨年の東京大学職員組合と総長との交渉での総長の見解の精神は、長期在職者の待遇改善であり、全学のポストも運用して努力しようということであったことから、その精神を踏まえて、業績等を考慮するのではなく高位号俸者から順に行うべきである、と述べた。学部長は、教官人事ではあるが特別なケースなので要望にそえるように努力する、と回答した。3月交渉で理職は、進展状況について質問し、学部長は、本部から調査に対し理学部には3名の高位号俸者がいることを報告したと述べ、関係教室の意向のあった2名については来年度にはほぼ同時に助手化されるだろうと回答した。理職は、空いた教務職員のポストの運用について尋ねた。学部長は、理学部の用意したポストの分については理学部で運用できるが、本部から借りたものは凍結される、と答えた。

5. 技術職員問題

3月交渉で理職は、全学研修について参加者を2名の上申したのが、1名になった理由を尋ねた。事務長は、15名の定員の所に40名の希望者があり、理学部では2名のうち1名が削られた、と答えた。学部長は、聴講の希望を制限するのはおかしいと思うので、今後の研修委員会の折に意見を言うと言った。また理職は、定年で退職される技術長等のポストの今後の運営について、早急に埋めることを要望し、現在4級の方が多くて主任は4級という運用がされているが、その方達が定年で辞められた後は主任のポストには3級でもつけるようにするのかと質問した。事務長は、人数の分布が4級の人が非常に多いので、今後の運用は3級で主任になるように変わって行くだろう、と回答した。4月交渉で理職は、研修の予算について質問した。学部長は、100万円程度を依頼する予定である、と回答した。事務長は、次回の会計委員会(6/11)で決定するが、その前でも申請して構わない、配分方法については運営委員会で検討する、と述べた。

6. 大学院重点化構想について

2月交渉で理職は、説明会のスケジュールを質問した。学部長は、職員向けのものは2月28日から3月1日に行いたい、細かい事項については未だ検討中であるから、大筋の説明という事になるだろう、と回答した。理職は、事務組織について、どの程度決まっているのか、また昨年度の田沢原案については、白紙撤回されていると理解しているのか、と質問した。学部長は、田沢原案をたたき台にして、3月～4月に検討を行う予定である、と回答した。理職は、田沢原案については、昨年に様々な問題点について指摘したことから、我々の意見を取り入れられて直して欲しいと要望した。学部長は、意見を取り入れてフィードバックしながら検討を進めて行きたい、と回答した。3月交渉で理職は、説明会で出てきた柏キャンパスの問題について質問した。学部長は、工学部と一緒に基礎理工学院を柏キャンパスに作ることに広域理学専攻の一部を(特に大型設備を使うもの)柏に移すことを計画している、と説明した。また学部長は、大学院重点化の問題につ

いて、事務機構は4月から理学院計画委員会の中にワーキンググループを作って検討して行き、皆さんの意見も取り入れて行きたい、と述べた。理職は、一号館の中央化の問題の進展状況について質問した。学部長は、概算要求を行う予定であり、柏キャンパスよりも優先する、一号館の建て替えの際に事務機構に関して、よい意味の合理化が出来るのではと考えている、と答えた。4月交渉で理職は、中央化に伴っての事務組織、図書・技官の組織についても改変について質問した。学部長は、学科の事務を一つに統合化した方がよいかということになるだろうが、基本的にはやはり各学科に事務があった方がよいと思う、図書や技官については一緒になった方が便利かと思う、今後検討していく、と回答した。

7. 一時金の差別支給について

4月交渉で理職は、教官の一時金の差別支給の選考基準を質問した。学部長は、役職(評議員、学内の委員、教室主任、入試関係の委員など)に対して支給した、と回答した。理職は選考基準はあまり知られていないのでは、と述べ、学部長は、今度の教授会で再度説明を行なうと回答した。理職は、本来はあくまで役職手当として支給するべき性格のものであり、一時金で差別支給するのは、一種の職務評価を行なったことを意味する、と述べ学部長の所見を尋ねた。学部長は、今のやり方はあまりよくないと思う、と回答した。

各号館（運営委員）長名簿

（3. 4. 1 現在）

号館名	所 属	職 名	氏 名	内線番号	任 期
1	物 理	教 授	堀 田 凱 樹	4 1 4 4	3. 4. 1 ~ 4. 3. 31
2	地 理	教 授	米 倉 伸 之	4 5 7 1	3. 4. 1 ~ 3. 7. 31
3	生 化	教 授	酒 井 彦 一	4 3 9 6	3. 4. 1 ~ 4. 3. 31
4	物 理	教 授	壽榮松 宏 仁	4 1 2 7	3. 4. 1 ~ 4. 3. 31
5	数 学	教 授	大 島 利 雄	4 0 4 1	3. 4. 1 ~ 4. 3. 31
7	情 報	教 授	益 田 隆 司	4 0 9 9	3. 4. 1 ~ 4. 3. 31
化 学	化 学	教 授	岩 澤 康 裕	4 3 6 3	3. 4. 1 ~ 4. 3. 31

（2号館：4ヵ月交替 地理→植物→人類→動物→地理）

教室主任・施設長等名簿

(平3. 4. 12 現在)

教室・施設名等	教室主任 施設長等氏名	電話番号	自宅電話番号 (緊急連絡先)
数 学 教 室	大 島 利 雄	4 0 4 1	
情 報 科 学 教 室	益 田 隆 司	4 0 9 9	
物 理 ・ 学 教 室	矢 崎 紘 一	4 1 2 3	
天 文 学 教 室	内 田 豊	4 2 6 0	
地 球 惑 星 物 理 学 教 室	國 分 征	4 5 8 8	
化 学 教 室	岩 澤 康 裕	4 3 6 3	
生 物 化 学 教 室	高 橋 健 治	4 3 8 4	
動 物 学 教 室	川 島 誠一郎	4 4 3 6	
植 物 学 教 室	加 藤 栄	4 4 5 4	
人 類 学 教 室	尾 本 恵 市	4 4 8 2	
地 質 学 教 室	島 崎 英 彦	4 5 1 4	
鉱 物 学 教 室	床 次 正 安	4 5 4 1	
地 理 学 教 室	米 倉 伸 之	4 5 7 1	
臨 海 実 験 所	高 橋 景 一	4 4 2 6	
植 物 園	岩 槻 邦 男	3 8 1 4 - 2 6 2 5	
スペクトル化学研究センター	増 田 彰 正	4 3 4 9	
中間子科学研究センター	矢 崎 紘 一	4 1 2 3	
地 殻 化 学 実 験 施 設	脇 田 宏	4 6 2 1	
素粒子物理国際センター	山 本 祐 靖	4 1 7 7	
天文学教育研究センター	石 田 恵 一	(0 4 2 2) 4 1 - 3 7 4 1	
遺 伝 子 実 験 施 設	堀 田 凱 樹	4 1 4 4	
気候システム研究センター	松 野 太 郎	2 6 8 0	
学 部 長	久 城 育 夫	4 0 0 0	
評 議 員	鈴 木 増 雄	4 1 9 3	
評 議 員	田 隅 三 生	4 3 2 7	
事 務 長	大 六 正 志	4 0 0 1	
事務長補佐(総務担当)	川 口 鴻 曉	4 0 0 2	
事務長補佐(経理担当)	北 川 嘉 一	4 0 0 4	
学 務 主 任	石 崎 雄 三	4 0 0 3	
専 門 職 員	笹 尾 昭 信	4 4 0 9	

東京大学名誉教授の称号授与

平成3年3月31日付で、停年退官された本学部関係の下記の元教授に対し、5月14日（火）の評議会において東京大学名誉教授の称号が授与されることになり、6月7日（金）理学部長室において久城学部長から授与された。

情報科学教室	後 藤 英 一
物理学教室	上 村 洸

物理学教室	二 宮 敏 行
天文学教室	堀 源一郎
地球物理学教室	小 嶋 稔
地質学教室	飯 島 東
学術情報センター	山 田 尚 勇
宇宙科学研究所	田 中 靖 郎

東京大学職員の永年勤続者表彰

平成3年3月31日付で、定年退職される下記職員に対する総長からの表彰状・記念品が3月27日（水）正午、学部長室において久城学部長から伝達された。

	記
化 学	田 上 多佳子
”	梅 津 恒
地 質	梅 澤 浩 乎
素 粒 子	山 下 博

平成3年4月12日（金）午後3時から神田学生会館において永年勤続者（20年勤続）表彰式があり本学部では下記の方々が表彰を受けた。

	記
地球惑星	鈴 木 保 典
生物化学	遠 藤 幸 子
人 類	塩 谷 祥 子
地 理	吉 田 壽 子
植 物 園	平 原 茂 子
臨 海	小 牧 總江子
天 文 研	藤 田 芳 子



ビアパーティー

植物園で教職員・学生の懇親会

理学部では、春の恒例行事となっている教職員と学生との懇親会（ビアパーティー）を、5月13日（月）小石川の理学部附属植物園において開催した。

前日の雨で開催が危ぶまれたものの、当日は打って変わって五月晴れとなり、緑の色あざやかな園内におよそ700人の教職員と学生が集まった。

久城学部長、岩槻植物園長の挨拶があり、鈴木評議員の乾杯の音頭でパーティに移った。

名誉教授も交じえ、各々ビールやツマミを手に語り合い、芝生には教官、学生の寛いだ懇親の輪がいくつも広がってゆき、新緑とビールを満喫して、和気藹々とした楽しい一時を過ごした。

「受賞関係」欄について

理学部広報では、今年度から受賞関係欄を設け、理学部及び理学系研究科の先生方の活発な研究活動の一端を学部内外に紹介することになりました。

つきましては、先生方で学会賞等を受賞された先生がおられましたら、その内容について400字程度にお纏めいただき、広報委員会宛にお送り下さるようお願いいたします。

なお、従来から掲載しておりますノーベル賞、文化勲章、文化功労者、学士院賞、紫綬褒賞等については、従来どおりの扱いとして取り扱うことにいたします。

また、従来、研究ニュースの欄に学会賞の受賞等が紹介されておりましたが、今回受賞関係欄を設けたことにより、研究ニュースの件数に含めないことにいたしましたので、ご了承下さるようお願いいたします。

広報原稿の募集について

理学部広報では、今年度からさらに内容の充実を図るため、理学部及び理学系研究科の先生方から、その時々のお話、ホットニュース等について自由に投稿いただくことになりました。

原稿は特に制限はありませんが、1,400～1,500字で1ページとなりますので、2ページ程度に纏めていただきたいと思います。

なお、投稿いただきました原稿は、広報委員会において検討のうえ採用させていただきますので広報委員にご連絡下さい。

訂正お詫びについて

理学部広報の前号、平成3年3月15日発行（22巻4号）32ページに誤りがありましたので、下記のとおり訂正し、お詫び申し上げます。

誤

新任教授紹介

正

新任教官紹介

編 集 後 記

夏の到来を前に、ホットな平成3年度理学部広報第1号をお届けいたします。
お忙しい中を御寄稿いただいた諸先生に御礼申し上げます。

一昨年度からの2色刷り表紙、昨年度からは御執筆いただいた先生の御写真の掲載と、ますます親しみやすい広報になりつつあると編集委員一同ひそかに自負しておりますが如何でしょうか。

今年度は、内容に一層のバリエティを持たせることを目標に、従来の新任の先生がたのエッセイ、研究ニュースの他に、一般の紀行文、随筆や提言など、皆様からの御寄稿も積極的に掲載していきたいと思っておりますので宜しくお願い申し上げます。表紙の写真にも皆様の御参加をお待ちしております。新しい企画のアイデアも歓迎いたします。又、理学部の高い研究レベルの宣伝も兼ねて、今年度より新たに「受賞欄」を設けました。大いに御利用下さい。

尚、4月より、1号館の編集委員は、佐藤勝彦先生（物理）にかわって十倉好紀先生（物理）、2号館の編集委員は、八杉貞雄先生（動物）にかわって守隆夫先生（動物）をお願いすることになりました。佐藤、八杉両先生、長い間御尽力有難うございました。
(内藤)

編集：

内 藤 周 弑 (スペクトル)	内線 4600
横 山 茂 之 (生物化学)	4392
松 本 良 (地 質)	4525
守 隆 夫 (動 物)	4438
十 倉 好 紀 (物 理)	4206
浅 見 新 吉 (中央事務、庶務掛)	4005

印刷.....三鈴印刷株式会社